

サロン活動について

市の担当者に聞きました

清瀬市はサロン活動を

どう進めていますか？



これまで市は、主に健康作りや介護予防の観点から地域の方々の仲間作りなどの支援に関わって

きました。清瀬市の65歳以上の高齢者人口は全人口の24.7%（2012年4月）。これは都内26市の中で一番高くなっています。高齢化の進行についてはもうずいぶん前から危惧されてきました。早めに取り組まなければ間に合わない、何かやろうと。市職員が声を上げ、地域の団地自治会などと協力して始めたのがきっかけです。

それから、昨年の震災を教訓に「地域の絆」作りの大切さが見直され、地域の動きも活発になってきました。我々も地域の交流を深めることの必要性を感じています。介護予防や健康作りの視点だけではなく、もっと命にかかわる災害対策を、と考えています。

介護予防と地域の交流・絆作り。そのためにこれからも地域に密着して活動しているサロンを支援していきたいですね。



座談会のようす

具体的にはどのような支援でしょうか？



まずはサロンを立ち上げたい人への情報提供ですね。

特にサロン会場の情報提供や人材の育成支援は、行政の役割だと思います。これまでいろいろな相談を受けてきました。

「サロンを開く場所がない」とか「立ち上げて10年続けてきたけれど後継者がいない」とか。解決のためには、やはりネットワーク作りが必要です。サロン運営の負担を減らせるようなアイデアも、ネットワークの中で生まれるのではないのでしょうか。



新井 社会福祉課長



小山 健康福祉部長



サロンには市が協力して行なわれているものと、居場所作りのために市民が自分たちで行うものがありますね。それぞれ担当窓口はどの課なのでしょうか？



市の事業としては、高齢支援課・健康推進課がサロン活動や健康作りなどの支援を行っています。

市民が開いているサロンへの支援は、基本的には社会福祉課が、具体的な支援の方法などは社会福祉協議会が行っています。

問い合わせは、どちらにしていただいても構いません。

高齢化社会を支えるには若い人が必要です。高齢者だけでなく多様な世代への支援が必要なのは？



そうですね。赤ちゃんから高齢者まで、多くの世代の人が集い、交流が深まり絆が生まれるというのが本来の目指す姿です。健康作り・介護予防はそのためのひとつの手段でもあります。おっしゃるとおり、いろいろな切り口から幅広く捉えていきたいですね。

ネットワークが必要とのことですが、各サロンのスタッフ同士が集まって情報交換できる場があるといいと思います。



すばらしいご提案ですね。話し合うことで、自分たちの課題を知ること

もできるかもしれません。今回サロンマップもできたことですし、それを足がかりに活かしたいですね。ぜひ市の担当課や、活動団体などに呼び掛けていきたいと思えます。

(※6月26日サロン連絡会が開催されました)

今回の取材で、居場所を求めている人が多いことを知りました。好きな場所を選んで行けるように、たくさんさんのサロンがあるといいと思います。

サロンにはいろいろな形があると思います。農家の軒下に集まってお茶を飲むのもひとつのサロンでしょう。それぞれの想いを大切に、サロンが肩を張らない地域の居場所になるといいですね。

高齢者から赤ちゃんまでが集う場所。そこにはきっと、同世代間だけでは得られない貴重なものがあると思います。(福田)